

平成18年度採択評価結果（平成18年9月）

[研究開発課題名] **超小型汎用コミュニケーション端末のための基盤技術の研究開発**
 [委託機関名] **株式会社横須賀テレコムリサーチパーク**

点数	合計点数	総合所見
技術評価	46	<p>(技術：研究を成功させるためのポイント、その他特記事項等についての総合的な所見)</p> <p>ユビキタスコンピューティング環境を社会生活に浸透するために不可欠とされる超小型端末の基本ハードウェア、ソフトウェアに関する研究開発であり、ユビキタス情報社会に及ぼす影響は大きく、きわめて産業的な展開領域が広い。研究開発項目に関しては、超小型端末を実現するうえで従来の考え方を見直す新規性の高い方針が打ち出されており、先端性は高く、かつ本研究成果である端末の性能改善性は大きい。ユビキタス展開するモバイルデバイスに組み込まれるハード・ソフトウェアであり、グローバル上で動き回りインターネットに接続されながら、多様なビジネス領域で利用されることが期待される。また、要素技術である、RF技術と基盤コンポーネントソフトウェア技術は、提案書で想定されている機器のみならず、他の産業領域で利用可能である。研究代表者および研究分担者の研究実績も多く、本研究開発を推進するうえで十分な能力を有していると考えられる。研究目標も研究開発終了時点で想定されるレベルも技術目標としており、適切であると判断される。しかしながら、逆に、関連する技術の研究開発が順調に進展していることが、前提となり計画されている点もあり、この点は、研究開発目標の完遂に関するリスクとなりえる。</p> <p>また、提案システムは、最先端の技術を投入した統合的なシステムであるがゆえに、提案機関の関連企業並びに関連する技術に関係する企業の研究開発活動との協調が必要となる可能性がある。</p> <p>本研究開発はユーザ端末の実用化を念頭においた、国際競争力を維持するためにも急がれると考えられることから、より早期に成果を示し、産業界が製品化に着手できる対応が望まれる。</p>
事業化評価	38	<p>(事業化：事業化のシナリオ、波及効果の見込、収益の可能性等に関する総合的な所見)</p> <p>既に構築済みの多数の想定顧客との協力関係を利用した事業化が計画されており妥当性があり、新しい市場を創出できることから、波及効果は大きい。また、多くの分野での技術転用の可能性を有する。</p> <p>ターゲット市場として、携帯電話端末等への組み込み市場は魅力的であるが、こうした個人消費者だけでなく、RFID事業者への大規模な消費を検討することにより、収益の向上が期待される。事業化計画は早期の収益を見込んでいることは評価できるが、体制として販売会社の体制が不透明である。</p> <p>新規の市場創出を前提としているために、収益可能性についてはリスクはあるものの、十分な収益を得られる可能性もあり判断が難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ターゲット市場は極めて魅力のある市場と考えられるが、携帯市場におけるユーザーニーズを見極める必要がある。 ・ライセンス収益に絞って事業化を計画しているが、パートナーであるユーシーテクノロジーによる製品サービスも一体として具体的に検討すべきである。 ・ライセンス契約による事業だけにターゲットを絞るのであれば、初期の売上納付比率を大きくすべきである。例えば、初期5年の比率を50%程度にすべきと考える。 ・基盤技術の研究開発、事業化のための製品サービスと委託金の関係を具体化すべきである。 ・本研究開発は、他の助成金等で開発された基盤技術の発展型研究開発として位置付けられており、関連性を明確にしておく必要があると考える。

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。